

歴史遺産学科 文化財保存修復コース 2026入学者用カリキュラム表

基盤科目【全学共通】	授業区分	区分要件	対象年次	卒業要件		
環境・地域	芸術平和学	講義 2単位	必修	6単位以上	1 2 3 4	
	東北文化論	講義 2単位				
	まちづくり論	講義 2単位				
	クリエイティブ・ローカル論	講義 2単位				
	地球環境論	講義 2単位				
	持続可能な地域論	講義 2単位				
	地域創造演習	演習 2単位				
ICT	ICTリテラシー	演習 2単位	必修	2	1	
	AIテクノロジー論	講義 2単位		単位	2 3 4	
	ICTと社会	講義 2単位		以上	2 3 4	
社会力	スタートアップゼミナール	演習 2単位	必修	6単位以上	1 2 3 4	
	デザイン思考基礎	講義 2単位				
	生活と経済	講義 2単位				
	キャリア形成論	講義 2単位	必修			
	仕事講座	講義 1単位				
	キャリア設計論	講義 1単位				
	スポーツ実技	実技 1単位				
	就業実習	実習 1単位				
	インターンシップ	実習 1単位				
人文社会	現代社会学	講義 2単位		4単位以上	1 2 3 4	
	社会と政治	講義 2単位				
	倫理と社会	講義 2単位				
	日本国憲法	講義 2単位				
	知的所有権	講義 2単位				
	地理学概論	講義 2単位				
自然科学	健康科学論	講義 2単位	必修	4単位以上	1 2 3 4	
	アートデザインのための数理	講義 2単位				
	データの科学	講義 2単位				
	環境と心理	講義 2単位				
	生物と自然	講義 2単位				
線形代数学	講義 2単位					
グローバルコミュニケーション	多文化理解	講義 2単位		2単位以上	1 2 3 4	
英語	ENGLISH 101	演習 2単位	選択必修			
	ENGLISH 102	演習 2単位				
	日本語1 ※留学生のみ	演習 2単位				
	Presentation in ENGLISH	演習 1単位				
	Communicative ENGLISH	演習 1単位				
	Academic ENGLISH	演習 1単位				
	Practical ENGLISH (for TOEIC test)	演習 1単位				
	日本語2 ※留学生のみ	演習 2単位				
	演習	2単位				
アート&デザイン	総合芸術概論1	講義 2単位	必修	6単位以上	1 2 3 4	
	総合芸術概論2	講義 2単位				
	美術史概論	講義 2単位				
	デザイン史概論	講義 2単位				
	色彩学概論	講義 2単位				
	立体造形基礎論	講義 2単位				
	編集ディレクション演習	演習 2単位				
	絵画・デッサン	演習 2単位				
アート&デザイン	日本美術史	講義 2単位	文保	4単位以上	2 3 4	
	西洋美術史	講義 2単位	文保			
	近現代美術史	講義 2単位	美術			
	文化財保存修復入門	講義 2単位	文保			
	文化遺産マネジメント	講義 2単位	文保			
	歴史遺産学総論	講義 2単位	歴産			
	日本建築史	講義 2単位	歴産			
	西洋建築史	講義 2単位	歴産			
	考古学概論	講義 2単位	歴産			
	民俗・人類学概論	講義 2単位	歴産			
	地誌学概論	講義 2単位	歴産			
	アジア文化論	講義 2単位	歴産			
	工芸デザイン入門	講義 2単位	工芸			
	文芸総論	講義 2単位	文芸			
	思想と文学	講義 2単位	文芸			
	プロダクトデザイン入門	講義 2単位	プロ			
	インテリアデザイン論	講義 2単位	プロ			
	応用人間工学	講義 2単位	プロ			
	建築デザイン論	講義 2単位	建環			
	都市空間デザイン	講義 2単位	建環			
	生活とグラフィックデザイン	講義 2単位	グラ			
	映像文化史	講義 2単位	映像			
	メディア文化史	講義 2単位	映像			
	サステナブルデザイン入門	講義 2単位	企画/食文化			
	地域デザイン入門	講義 2単位	企画/食文化			
	ブランド・マーケティング入門	講義 2単位	企画/食文化			
	広告表現入門	講義 2単位	企画/食文化			
	商品開発・店舗プロデュース入門	講義 2単位	企画/食文化			
	事業計画入門	講義 2単位	企画/食文化			
	インターネットビジネス論	講義 2単位	企画/食文化			
	現代幸福論	講義 2単位	地域			
	クリエイター起業論	講義 1単位	共通			
	クリエイター起業ゼミナール	演習 1単位	共通			
	イノベーションプロジェクト	演習 1単位	共通			
	(単位互換科目)					

学科学目	授業区分	区分要件	対象年次	卒業要件	
必修	文化財保存修復入門	講義 2単位	基礎	1	78単位以上
	日本美術史	講義 2単位	基礎	1	
	西洋美術史	講義 2単位	基礎	1	
	歴史遺産学総論	講義 2単位	基礎	1	
	世界遺産総論	講義 2単位	基礎	1 2 3 4	
	文化財基礎化学	講義 2単位	基礎	1	
	絵画修復論	講義 2単位	応用	1	
	立体作品修復論	講義 2単位	応用	1	
	日本近代美術史	講義 2単位	応用	2 3	
	保存科学概論	講義 2単位	応用	2	
	文化財保護論	講義 2単位	応用	2	
	文化財材質論	講義 2単位	応用	2	
	文化遺産マネジメント	講義 2単位	応用	2	
	絵画・立体基礎演習1	演習 4単位	基礎	1	
	絵画・立体基礎演習2	演習 4単位	基礎	1	
	文化財調査演習1	演習 2単位	基礎	1	
	文化財調査演習2	演習 2単位	応用	2	
	保存科学演習	演習 4単位	応用	2	
	立体修復・技法演習	演習 4単位	応用	2	
	東洋絵画修復演習	演習 4単位	応用	2	
	西洋絵画修復演習	演習 4単位	応用	2	
	論文講読	演習 2単位	発展	2	
	キャリアマネジメント	演習 2単位	応用	3	
	保存修復応用演習1	演習 4単位	応用	3	
	保存修復応用実習1	実習 2単位	応用	3	
	保存修復応用演習2	演習 4単位	応用	3	
	保存修復応用実習2	実習 2単位	応用	3	
	専門調査演習	演習 2単位	応用	3	
文化財保存修復研究1	卒研 4単位	発展	4		
文化財保存修復研究2	卒研 6単位	発展	4		
選択	日本史概論	講義 2単位	基礎	1 2 3	6単位以上
	考古学概論	講義 2単位	基礎	1 2 3	
	民俗・人類学概論	講義 2単位	基礎	1 2 3	
	近現代美術史	講義 2単位	基礎	2 3	
	民俗・人類学特論	講義 2単位	応用	2 3 4	
	先史考古学特論	講義 2単位	応用	2 3 4	
	歴史考古学特論	講義 2単位	応用	2 3 4	
	中世歴史学特論	講義 2単位	応用	2 3 4	
	近世歴史学特論	講義 2単位	応用	2 3 4	
	演習	2単位			

2026教育課程概要【歴史遺産学科文化財保存修復コース】

科目概要				学修レベル		教育概要		学位授与方針(DP)との関連																						
科目名	授業形態	単位数	授業区分	学年	学期	基礎	応用	発展	科目目的	目指す教育成果と到達度判断		身につける能力要素																		
										到達目標	評価方法・手段	知識・理解	思考力	課題発見力	発想・構想力	表現力	倫理性	実行力	基礎学力	自己管理能力	人間関係形成力									
												1110	210	235	415	750	90	490	260	50	290									
												27	6	7	13	22	3	18	9	2	10									
文化財保存修復入門	講義	2	必修	1	前期	●			本授業は、文化財保存修復学科と歴史遺産学科の1年生を主な対象としています。この授業の主要な目的は、文化財の保存と修復に関わる様々な分野の概要を理解し、各分野の専門的な学びに必要な基礎的な知識を習得することです。加えて、授業の復習とレポート作成を通じて、論理的な意見を構築し、効果的に表現する能力を養うことを目指します。	①(想像力) 専門分野ごとの文化財についての基本的な知識を説明すること。(40%) ②(創造力) 文化財をどう捉え、どのように保存修復していくか自らの考えで述べるができる。(30%) ③(社会性) 授業の内容を理解し、自身の考察を加えレポートを書くこと。(30%)	レポート①(25%) レポート②(25%) 期末試験(50%)	40										30								
日本美術史	講義	2	必修	1	前期	●			日本美術の作品に興味を持ってもらうことが第一の目的です。そのために作品の表面的な理解に終わることなく、その持つ内容の意味するものを考え理解することのおもしろさ、重要性に気付くと、一層作品に対する興味や深くなります。作品をさまざまな角度から理解するという姿勢を学んでください。	①(想像力) 日本美術史の流れや日本美術に関する専門用語を理解できる。(40%) ②(創造力) 美術作品の「図像」の多彩さや理解できる。(30%) ③(社会性) 各時代の代表的作品を覚えることができる。(30%)	授業レスポンス(30%) 期末レポート(70%)	40											30							
西洋美術史	講義	2	必修	1	後期	●			主要な美術作品の形態的特徴・歴史の意味・機能などを探ることで、西洋美術史へのアプローチを修得することを目的とします。	①(想像力) 西洋美術の歴史を理解し、明快な文章で表すことができるようになる。(40%) ②(創造力) 美術の形が変化する様を観察し、その観察を適切に文章化できるようにする。(20%) ③(意志) 絵画、彫刻、建築、工芸といった美術のジャンルの類似性、相違性を理解し、適切な言葉で表現することができるようになる。(20%) ④(社会性) 小テストを自らの力で回答する。レポートは課題通り自ら考察し、他者の文章を模倣することなく記述する。以上の行為で、著作権などの社会性を学ぶ。(20%)	授業時レポート(50%) 期末レポート(50%)	40												20	20					
歴史遺産学総論	講義	2	必修	1	前期	●			本講義は、考古学・歴史学・民俗学の3分野の学問について概要を知るとともに、研究成果を現代社会に還元する「歴史遺産マネジメント」の手法を学びます。国宝や重要文化財・世界遺産といった「有名な文化財」から「日常にある文化財」にまで目を配り、「歴史遺産とは何か?」について、その視野を広げることが第一の目的です。また、歴史遺産は過去のことばかりでなく、現代・未来を考える素材にもなります。そこで「歴史遺産の読み解き方」の基本的な知識と方法論を身につけるとともに、「歴史遺産の活用」について学ぶことも目的としています。	①歴史遺産とは何かを理解し、説明することができる(30%) ②歴史遺産に関わる知識や事象について説明することができる(30%) ③授業内容をふまえて(文化財や遺産についての考え方を理解し)、歴史遺産と関連した現代社会の問題点や未来への展望など行政、地域住民など多面的意見や考え方を理解し、説明することができる(40%)	レポート	30																		
世界遺産総論	講義	2	必修	1~4	後期	●			この科目では、①「世界遺産」の選定基準とは何か、②「世界遺産」にまつわる問題は何か、③「世界遺産」の活用、について理解することを目的とします。「普遍的な価値」をもつ世界遺産に表れる「光と影」に気付き、多様な価値観を身につけることを求めます。	①世界遺産の運用に関する基礎的な方法を習得し、説明することができる(40%) ②「世界遺産とは何か」を理解し、自分なりの価値判断を形成できるようにする(20%) ③世界遺産を社会に活かす方法について、考えることができる(20%) ④世界遺産をめぐる多様な考え方を理解し、それをふまえた自身の意見を述べる(20%)	レポート(100%)														30					
文化財基礎化学	講義	2	必修	1	後期	●			本講義は文化財保存を専攻する学生が保存修復の現場で必要と思われる、化学の基礎的内容を独自に吟味し、構成したものです。特に有形文化財は何らかの物質であることから、その物性に関する化学は大変重要な学問領域です。講義を通して、物質から見た文化財の性質を理論的に理解することを旨とします。講義は学生がスムーズに理解出来るよう、文化財保存修復で問題になった事例などを関連させた内容で行います。	①(想像力) 化学の基礎知識を、文化財保存分野と関連させて理解することができる(40%) ②(創造力) 化学の基礎知識を、文化財保存分野と関連させて説明することができる(30%) ③(意志) 上記に関する基礎的な演習問題を解くことができる(30%)	中間課題:50% 期末課題:50%	40													30					
絵画修復論	講義	2	必修	1	後期	●			絵画の構造、絵画に生じる損傷やその原因、絵画技法の歴史や修復についての考え方の発展を学び、基本的修理理念や修復技法について理解することを目的とします。西洋絵画修復と東洋絵画修復の両分野での共通点や違いなどを把握した上で、授業の中で学んだことや修復の問題点などについて、自らの言葉で意見を述べるができるようになることを目指します。	①(想像力) 絵画作品の構造や基本的修復技術について理解し、説明することができる。(40%) ②(創造力) 絵画修復の基本原理について理解し、自らの意見を述べる(40%) ③(社会性) 授業の内容を理解し、自身の考察を加えレポートを書くことができる。(20%)	西洋絵画(小テスト20%、レポート30%) 50% 東洋絵画(小テスト20%、レポート30%) 50%	40													20					
立体作品修復論	講義	2	必修	1	後期	●			日本には、古典彫刻(仏像彫刻)を代表格としつつも、それ以外にも多くの分野の立体作品が存在しています。また、時代的には古いものもあれば、現在制作されているものもあります。本授業では、そうした日本の立体作品についてできるだけ広く取り上げます。各分野においては、歴史、造形、技法・材料・構造を学びます。その上で、立体作品の修復の概要を学びます。日本には多様な立体作品があり、その素材等や修復方法もまた多様であることを理解することが本授業の目的です。	①(想像力) 立体作品とその修復の基礎知識が身につくことで視野を広げることができる。(50%) ②(創造力) 立体作品とその修復について、自らの意見を述べる(25%) ③(意志) 学んだことを文章にできる。(25%)	レポート①課題図書を読んで自分の考えを書く(50%) レポート②特定の作品について調査して自分の考えを書く(50%)	50														25	25			
日本近代美術史	講義	2	必修	2~3	前期	●			近代以降の日本美術について概説します。代表的な作家や作品、美術運動や歴史的事項を理解するとともに、わが国において「美術」という近代的・西洋的な概念や制度が明治以降どのように受容され、それが今日の私たちの思考や制作にどのような影響を及ぼしているのかを理解することを目的とします。	①(想像力) 日本近代美術史の流れを概観しその特徴について説明することができる。(40%) ②(創造力) 代表的作例について、歴史的背景を踏まえて論じることができる。(40%) ③(意志) 授業で得た知識を各自の課題に反映させることができる。(20%)	最終課題レポート(試験)(65%) 授業内で適宜実施するレスポンスカードや小課題による学習意欲や基礎的理解(35%)	40														40	20			
保存科学概論	講義	2	必修	2	前期	●			本講義は、保存科学の基礎と位置づけ、文化財の劣化に関わる様々な因子と劣化の原理、制御・管理法を学びます。	①(想像力) 文化財に影響を与える各因子とその影響について説明することができる。(30%) ②(創造力) 展示・保管空間などの問題点と対処法を指摘することができる。(30%) ③(社会性) 文化財の保存についての基礎知識を身につけることができる。(40%)	通常課題(40%) 期末課題(60%)	30													40					
文化財保護論	講義	2	必修	2	前期	●			文化財保護行政及び文化財保護政策に関する知識を身につけることを目的とします。また、授業の中で学んだことについて、自らの言葉で意見を述べるができるようになることを目指します。	①(想像力) 文化財保護行政及び文化財保護政策に関する知識を習得し、説明できる。(40%) ②(創造力) 文化財保護行政及び文化財保護政策に関して、自身の考えを述べる(30%) ③(社会性) 授業の内容を理解し、自身の考察を加えレポートを書くことができる。(30%)	小課題の提出課題レポートの提出(30%) 小テスト課題レポートの提出(30%) 課題レポートの提出(40%)	40														30				
文化財材質論	講義	2	必修	2	前期	●			①文化財を健全な状態で保存してゆくためには、周囲の保存環境を良好に保つ必要がある。その最も大きな因子である、湿度、虫害、空気汚染、光などについて、その実際や対策などについて学ぶ。 ②文化財は様々な材料から作られているが、出土品では限られた材料しか残らない。伝世品である正倉院宝物では約170種の各種材料がほぼ当初の状態で見られるので、正倉院宝物を中心としてわが国の文化財にはどのようなものがあるのかについて学ぶ。 ③わが国のみならず世界を代表する文化財である正倉院・正倉院宝財について知識を習得し、また正倉院で現在行われている日常的な取り組み、あるいはこれまでの保存に関する歴史などについて学ぶ。 ④全体として①、②の学習成果を、ゼミ研究や卒論などにおいて応用できるようにする。	①(想像力) 文化財の材料がどのようなものか理解し、各材料の特徴を説明することができる。(60%) ②(創造力) 講義を通して得られた知識を他の講義の理解に役に立たせることができる。(20%) ③(社会性) 文化財の材料についての基礎知識を身につけることができる。(20%)	知識の定着を確認する筆記試験(40%) 授業内容に対する回答「質問・学習成果など」の質(60%)	60																	20	
文化遺産マネジメント	講義	2	必修	2	後期	●			文化遺産には地域で独自で育まれた文化や産物が多く含まれ、それらは郷土の資源として教育や観光など活用されてきている。一方で、高齢化や過疎化などから継承が危ぶまれ、問題を抱えている現状もある。本授業では文化財保存修復の観点から地域文化遺産の現状を学び、活用や課題解決に向けた、考える力を身につけることを目的とする。	①(想像力) 文化遺産の現状を理解できる。(40%) ②(創造力) 文化遺産が抱える問題を課題解決への導くアイデアを提示できる。(30%) ③(意志) 文化遺産に関して保存修復の観点から意見を述べる事ができるようになる(30%)	課題(レポート)(80%) 課題(リアクションペーパー)(20%)	40																30		
絵画・立体基礎演習1	演習	4	必修	1	前期	●			文化財保存修復学科の基礎演習において、心情的な面と、論理的な面をバランスよく習得し、それを伝えられるようになることが、文化財保存修復に携わるうえで必要な学びになります。その為に有効な演習として、デッサンがあります。デッサンは、ものを見たときに、主観的に(可愛い・怖いなど)どう感じるかを表現し、客観的に(形・大きさ・色など)正しく理解し、それを他者に伝える力を得るのに適した方法です。デッサンを通して、鑑賞力や美的感覚の向上のみならず、保存修復に携わる者として、「個人的な気持ちだけ」で判断することや、「論理的な理由だけ」で判断せず、多角的に捉える意識を身につけます。心情・論理の基本的なバランス感覚や、文化財保存修復に適したものの見方を習得し、今後の調査・演習・発表などあらゆる場面に活用できます。	①(想像力) ものを視覚を通して理解・思考し、平面に再現することができる(50%) ②(創造力) ものの本質を見極めることができる。(多角的にものを観察することができる)(25%) ③(意志) 失敗を恐れず、積極的に取り組むことができる(25%)	課題提出による評価。観察力、表現力70% 授業への取り組み姿勢30%	50																		
絵画・立体基礎演習2	演習	4	必修	1	後期	●			絵画の保存修復を学ぶ最初の段階として、絵画の組成、技法、および構造について学びます。絵画の修復に必要な不可欠な、作品の構造と技法を読み解く基礎力を付けることを目的とします。本演習の中で西洋絵画と東洋絵画双方の技法を学び比較することで、幅広い視野を持ち、保存修復を学ぶ基礎を養うことを意図しています。	①(想像力) 様々な絵画の特性・技法を理解し、材料や技法そして構造の特徴を自ら説明できる。(40%) ②(創造力) 作品ごとの技法を理解したうえで、自らの解釈で表現することができる。(30%) ③(意志) 積極的に制作にかかわり、意欲をもって取り組むことができる。(30%)	西洋絵画技法の授業内での制作評価と提出レポート評価 60% 東洋絵画技法の授業内での制作評価と提出レポート評価 40%	40																		
文化財調査演習1	演習	2	必修	1	前期	●			実地調査は文化財保存修復を学ぶ者にとって大変重要です。博物館・美術館・寺院などにおいて文化財がどのように展示、管理、保存されているのか、実際の現場に立ち、観察を通じて課題を見つける貴重な機会となります。本調査演習を通して、自ら調査できるようにするための基礎を身につけ、その成果をまとめる力を修得することが目的になります。	①(想像力) 事前調査から現地調査を通じて課題を見つけることができる。(40%) ②(意志) 文章としてわかりやすくまとめ表現することができる。(30%) ③(社会性) グループ活動における協調性を身につけることができる。(30%)	レポート(事前調査、実地調査)(70%) 授業への積極的参加(30%)																30			
文化財調査演習2	演習	2	必修	2	前期	●			本授業では履修者全体での東京都内の博物館、美術館の訪問および各自の調査テーマに基づいての個別の施設訪問を行います。国内における重要な博物館施設等の見学を通して文化財に対する基礎知識を高めるとともに、自らの興味に関連する調査地を選定して、現地へ赴き実物を見ることで気付きを得ることを目的とします。自ら調査計画を立て実施することで、調査能力と理解力の向上、問題解決能力の向上を目指します。また調査内容を口頭発表することで、他者に向けてわかりやすく伝える能力の向上を目指します。	①(想像力) 自ら設定したテーマに基づき訪問地を選択し、調査することができる。(40%) ②(創造力) パワーポイントによって成果を他者にわかりやすく説明することができる。(30%) ③(意志) 調査を進める過程において生じる問題点を修正し、調査結果として成果をまとめることができる。(30%)	パワーポイント作成、プレゼンテーション 70% レジュマ作成 30%																			

科目概要				学修レベル		教育概要		学位授与方針(OP)との関連																	
科目名	授業形態	単位数	授業区分	学修時期		基礎	応用	科目目的	目指す教育成果と到達度判断			身につける能力要素													
				学年	学期				到達目標	評価方法・手段	知識・理解	思考力	課題発見力	発想・構想力	表現力	倫理性	実行力	基礎学力	自己管理能力	人間関係形成力					
保存修復応用演習2	演習	4	必修	3	後期	●		<p>2年生までの学科基礎演習を基にした専門の演習です。立体作品修復・東洋絵画修復・西洋絵画修復・保存科学の各ゼミに別れ、それぞれの専門分野について、技術や研究手法を応用的に学びます。</p> <p>【東洋絵画修復ゼミ】 2年生までの学科基礎演習を基にした専門の演習です。立体作品修復・東洋絵画修復・西洋絵画修復・保存科学の各ゼミに別れ、それぞれの専門分野について、技術や研究手法を応用的に学びます。紙や絹を支持体とした該文化財修復の基礎知識と基本技術を習得し、自ら作業を行えるようになることを目的とします。また自ら研究意識を持ち、課題を設定し、その解決に向けて学修することができるようになることを目指します。</p> <p>【西洋絵画修復ゼミ】 保存・修復の必要な対象作品に対し、問題点を見出して修復方針の提案を行い、方針に沿って保存修復処置を実施します。実際の経験を通して、保存修復上の問題点や作品の取り扱い方法を把握し、保存修復についての理解を深めることを目的とします。修復作業を通して意見交換や役割分担を行い、共同で円滑に作業が進められる能力を身に付けます。また個人研究を通して、研究方法の立案や調査・作業のすずめ方、論文の組み立て方などについて学びます。個人研究をもって卒業論文のテーマ選びや研究の進め方の基礎とします。</p> <p>【立体作品修復ゼミ】 2年生までの学科基礎演習を基にした専門の実習です。立体作品修復・東洋絵画修復・西洋絵画修復・保存科学の各ゼミに別れ、個人課題の中でそれぞれの専門分野の基本的な技術や研究手法を高めます。</p> <p>立体作品修復ゼミでは、前期の授業（保存修復応用演習1）の内容をさらに発展させ、知識、技法・材料・構造、調査、修復を深く学ぶことにあります。また、授業を展開していく中で、保存修復分野の社会的意義や今後のあり方を考えます。さらに、4年次に行う卒業研究の前段階として、保存修復分野での問題を発見する思考と研究方法の基礎を身に付けます。</p> <p>【保存科学修復ゼミ】</p>	<p>①〈想像力〉 各分野の作品、資料より基本的な情報を得ることができる。(30%) ②〈創造力〉 調査、研究結果を適切な体裁で報告することができる。(30%) ③〈意志〉 各分野で求められる基本的な作業ができる。(20%) ④〈社会性〉 一つの目標に向かって協同で作業を進めることができる。(20%)</p> <p>【東洋絵画修復ゼミ】 ①〈想像力〉 各分野の作品、資料より基本的な情報を得ることができる。30% ②〈創造力〉 調査、研究結果を適切な体裁で報告することができる。40% ③〈社会性〉 一つの目標に向かって協同で作業を進めることができる。30%</p> <p>【西洋絵画修復ゼミ】 ①〈想像力〉 作品の状態観察に基づき、自らの考えで修復処置の立案およびそれに関する議論ができるようになる。(30%) ②〈創造力〉 調査研究成果をまとめ、わかりやすい文章、体裁で報告することができる。(40%) ③〈社会性〉 取り扱う作品の環境管理に留意し、他者との協力関係を築いて責任を持って作業を進めることができる。(30%)</p> <p>【立体作品修復ゼミ】 ①〈想像力〉 立体作品について、美術史・技法・材料・構造、保存修復それぞれの視点で理解し、調査や修復の調査を書くことができる。(30%) ②〈創造力〉 実習を通して課題発見から研究へと結びつけることができる。(40%) ③〈社会性〉 文章を纏める力とプレゼンテーション能力を身につけることができる。(30%)</p>	<p>積極的に取り組む姿勢(40%) 課題提出・発表(60%)</p> <p>【東洋絵画修復ゼミ】 個人研究発表とポストプリント(40%) レポート(30%) 積極的に取り組む姿勢(30%)</p> <p>【西洋絵画修復ゼミ】 取り組み姿勢・態度(作業の進め方、温度管理、清掃などによる環境管理) 30% 修復作業を進める上での調査・レポートや最終的に作成する修復報告書の内容 40% 個人研究の進捗、レポート、研究成果の発表内容(30%)</p> <p>【立体作品修復ゼミ】 レポート(40%) 口頭発表(30%) 積極的に取り組む姿勢(30%)</p> <p>【保存科学修復ゼミ】</p>	30														30
保存修復応用実習2	実習	2	必修	3	後期	●		<p>2年生までの学科基礎演習を基にした専門の実習です。立体作品修復・東洋絵画修復・西洋絵画修復・保存科学の各ゼミに別れ、個人課題の中でそれぞれの専門分野の基本的な技術や研究手法を高め、成果発表を通して理解を深めます。</p>	<p>①〈想像力〉 各分野の作品、資料より基本的な情報を得ることができる。(30%) ②〈創造力〉 調査、研究結果を適切な体裁で報告することができる。(40%) ③〈意志〉 一つの目標に向かって協同で作業を進めることができる。(30%)</p> <p>【東洋絵画修復ゼミ】 ①〈想像力〉 各分野の作品、資料より基本的な情報を得ることができる。30% ②〈創造力〉 調査、研究結果を適切な体裁で報告することができる。40% ④〈社会性〉 一つの目標に向かって協同で作業を進めることができる。30%</p> <p>【西洋絵画修復ゼミ】 ①〈想像力〉 作品の状態観察に基づき、自らの考えで修復処置の立案およびそれに関する議論ができるようになる。(30%) ②〈創造力〉 調査研究成果をまとめ、わかりやすい文章、体裁で報告することができる。(40%) ④〈社会性〉 取り扱う作品の環境管理に留意し、他者との協力関係を築いて責任を持って作業を進めることができる。(30%)</p> <p>【立体作品修復ゼミ】 ①〈想像力〉 立体作品について、美術史・技法・材料・構造、保存修復それぞれの視点で理解し、調査や修復の調査を書くことができる。(30%) ②〈創造力〉 実習を通して課題発見から研究へと結びつけることができる。(40%) ④〈社会性〉 文章を纏める力とプレゼンテーション能力を身につけることができる。(30%)</p> <p>【保存科学修復ゼミ】 ①〈想像力〉</p>	<p>積極的に取り組む姿勢(40%) 課題提出・発表(60%)</p>	30													30	
専門調査演習	演習	2	必修	3	後期	●		<p>本演習では、文化財保存修復に関連する様々な現場を訪ねることで見分を広げ、今後の学びに役立てることをねらいとします。</p> <p>各ゼミごとに学びに必要な訪問地を計画し、社会的な能力も養います。</p>	<p>①〈想像力〉 訪問先に関する事前調査を行い、準備・計画を立てることが出来る。(30%) ③〈意志〉 自らの視点で現地調査の内容を深め、さらに探求することが出来る。(30%) ④〈社会性〉 適切な態度で調査訪問し、訪問先で積極的な質問が出来る。(40%)</p> <p>【東洋絵画修復ゼミ】 ①〈想像力〉 訪問先に関する事前調査を行い、準備・計画を立てることが出来る。30% ③〈意志〉 自らの視点で現地調査の内容を深め、さらに探求することが出来る。30% ④〈社会性〉 集団行動において適切な態度で調査訪問を行い、訪問先では積極的に質問することができる。40%</p> <p>【西洋絵画修復ゼミ】 ①〈想像力〉 訪問先に関する事前調査を行い、準備・計画を立てることが出来る。(30%) ③〈意志〉 自らの視点で現地調査の内容を深め、さらに探求することが出来る。(30%) ④〈社会性〉 適切な態度で調査訪問し、訪問先で積極的な質問が出来る。(40%)</p> <p>【立体作品修復ゼミ】 ①〈想像力〉 訪問先に関する事前調査を行い、準備・計画を立てることが出来る。(30%) ③〈意志〉 自らの視点で現地調査の内容を深め、さらに探求することが出来る。(30%) ④〈社会性〉 適切な態度で調査訪問し、訪問先で積極的な質問が出来る。(40%)</p> <p>【保存科学修復ゼミ】 ①〈想像力〉 訪問先について事前に調べ、訪問計画を作ること(30%) ③〈意志〉 自らの視点で現地調査の内容を深め、さらに探求すること(30%)</p>	<p>事前調査(30%) 見学時の取り組み姿勢・態度(30%) 調査後の報告(40%)</p>														30	40

